

## 第4回(仮称)都市のグランドデザイン有識者委員会

### 議事概要

日 時	平成 29 年 8 月 28 日(月) 午後 6 時 30 分 ~ 8 時 30 分
場 所	練馬区役所本庁舎 19 階 1903 会議室
次 第	<p>1 報告</p> <p>(1) 前回の議事内容について</p> <p>(2) 人口の現状と将来推計について</p> <p>2 議題</p> <p>(1) プレゼンテーションの内容整理について</p> <p>(2) 練馬区が目指すべき 30 年後の都市像について</p> <p>(3) 将来的に求められる都市の役割・機能について</p> <p>(4)(仮称)都市のグランドデザイン(素案)の構成について</p> <p>3 その他</p>
配付資料	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第3回(仮称)都市のグランドデザイン有識者委員会議事概要まとめ</li> <li>・資料1 練馬区の人口の現状と将来推計</li> <li>・資料2 学識経験者委員プレゼンテーションのまとめ</li> <li>・資料3 練馬区が目指すべき 30 年後の都市像について</li> <li>・資料4 30 年後に求められる都市の役割・機能について</li> <li>・資料5 (仮称)都市のグランドデザイン(素案)の構成について</li> </ul>
出席委員 名簿記載順 ・敬称略	今井 伸、久保田 尚、小泉 秀樹、瀬田 史彦、 只腰 憲久、横田 樹広、井口 薫、佐藤 公明、 山本 勝一
欠席委員 敬称略	村木 美貴
区出席者	副区長 黒田 叔孝 副区長 山内 隆夫 参与 斉藤 親 技監(都市整備部長) 宮下 泰昌 〔事務局〕 企画部参事(企画部企画課長) 佐古田 充宏 都市整備部都市計画課長 吉田 哲

## 1 報告事項

### 【委員長】

報告について、事務局から説明をお願いします。

### 【企画課長】

資料1 説明

### 【都市計画課長】

議事概要まとめ 説明

### 【委員長】

資料1の中に都営地下鉄大江戸線の延伸についての記載がありますが、この文脈からすると、今後の都営地下鉄大江戸線の延伸による影響は見込んでいないということでしょうか。

### 【企画課長】

今回の推計では仮定の条件は考慮せず、現状をベースとしています。将来の状況を想定した推計は、また改めて行う必要があると思います。

### 【委員長】

そのほかの社会に影響を与えるようなインフラ整備なども考慮に入れていないということでしょうか。

### 【企画課長】

その通りです。

### 【委員】

大泉地域は、都営地下鉄大江戸線の延伸とは別の要因として、生産緑地地区の解除を境にして、人口の構造が今までの傾向と異なる可能性もあると思います。

### 【都市計画課長】

生産緑地地区は、指定から30年が経つ時期がすぐ近くまで来ていますので、その後、開発などが進めば当然そのような話になりますが、もう一方で、どのように農地を守るかという視点も必要になると思いますので、なかなか読めない部分ではありますが、要因としては委員のご指摘の通りだと思います。

### 【委員】

人口が減少傾向であるということは、人口構成がうまくバランスをとれる

ように開発誘導できると、良いまちが作れるのではないのでしょうか。

**【参与】**

資料1の20～21ページですが、高齢化していることは間違いなのですが、ミスリードしてはいけないと思うのが、どこからが高齢者なのかということです。現状でも65歳以上の人々の多くは就業していて、まだ収入を得ています。高齢化社会ではあることは間違いなのですが、就業との関係や社会保障との関係などを厳密に見ようとしている人たちもいるような状況です。

**【委員長】**

この年齢の三区分別は何かで決められたものなのでしょうか。

**【参与】**

昔から厚生労働省が機械的にこのラインで切っているものです。

**【企画課長】**

65歳と言っても昔とは異なり、高齢者の8割以上の方は元気に暮らしていますので、一律に支えていけないといけない対象ということではないのですが、一方で要介護認定者の数も全体数が増えるにしたがって、割合が上がりますので、そのような視点も大事だと考えています。ただし、65歳をもって必ず支えないといけない高齢者かということ、そうではないと認識しています。

**【委員長】**

年少人口の方も、15歳で働いている人は少ないでしょうから、上と下については統計の考え方をシフトする必要があるかもしれません。

**【参与】**

統計の継続性という視点もあるので、このようなまとめ方をするのも良いのですが、どのように解釈するかは、本当に大きな違いがありますので注意する必要があると思います。

## 2 議題

### (1) プレゼンテーションの内容整理

**【都市計画課長】**

資料2 説明

**【委員長】**

前回と前々回の各学識経験者委員のプレゼンテーションの内容を簡潔にまとめられています。お気づきの点、あるいは漏れている点があればお知らせください。

**【委員長】**

質疑内容は、プレゼンテーションをされた委員が答えた内容でしょうか。それとも他の委員の方が、発言された内容も含まれているのでしょうか。

**【都市計画課長】**

プレゼンテーションをされた委員が答えた内容と質問の中でいただいた意見・提案の内容をまとめてあります。

**【委員長】**

今回、6人の学識経験者の委員にプレゼンテーションをいただきましたが、大事な分野でたまたま6人の方に集まっていたのですが、ランドデザインのまとめにあたって漏れている分野はないのでしょうか。

**【都市計画課長】**

まとめ方については、事務局としても思案しているところです。網羅的・総花的にまとめる方法もありますが、ある程度集約し視点を絞らなくてはならないと思っています。後ほど、資料4の中で説明しますが、これから新たな都市像を描いていく中で、「まちの機能と役割」としての大きなテーマではこのような視点が必要だということをまとめています。仮に、こういう視点も必要ではという指摘があれば、個別のヒアリング等で補足することを考えています。

- (2) 練馬区が目指すべき30年後の都市像について
- (3) 将来的に求められる都市の役割・機能について

**【都市計画課長】**

資料3、資料4 説明

**【委員長】**

まずは、資料3の練馬区の都市特性と今後の都市インフラ整備の動向を踏まえて、理想とする都市像を目指すことで良いかどうか、そのあたりから議論を始めたいと思います。ご意見がありましたらお願いします。

**【委員】**

1点だけ確認しておきたいのですが、資料3のまちづくりの項目に「横断的な相談機能の“集約”」と書いてありますが、私が申し上げたのは「集約」ではなく、逆に「充実」です。

子どもから高齢者まで、様々な相談をそこでワンストップでできるような相談機能を持った拠点を小地域にたくさん分散していくという話をしたわけで、集約とか適正配置ではありません。「専門的な相談をしっかりと受け止めていく」ためには、「拠点への公共・公益サービスの施設の集約化」は一定程度必要だと思います。ただ、地域の中で受け止めていく、地域の商店街の皆さんとまさに助け合いの地域を作っていくとなる時には、拠点を集約するのではなく、いろいろ相談できる機能を沢山作っていくという視点が必要だと申し上げたので、この「集約」という言葉が少し違うと思いました。そこだけ確認をお願いします。

**【委員長】**

資料3の「横断的な相談機能の集約と適正配置」の部分は「横断的な相談機能の充実」ということでよろしいですか。

**【委員】**

結構です。

**【委員】**

同じことを私も思いました。最近の研究成果では、例えば75歳以上の後期高齢者が健康でいられる条件として、100mくらいに立ち寄れる施設があることが大事であるということがわかってきました。

100m程度のところに身近に立ち寄れる居場所みたいなものがないと、健康維持ができないということがわかってきていて、様々なサービスの基になるような大きな拠点はある程度まとまっても良いと思うのですが、小さな拠点はむしろ分散的に沢山ないとだめだということがわかってきています。なんでもかんでも集約するということではなく、身近な生活圏の中に相談機能だとか、立ち寄れるような「居場所」という言葉を入れた方が良いのかなと思います。居場所になるような施設が分散的に多数存在していることが重要だということです。コミュニティカフェや喫茶店などの民間の施設でも良いのです。コンビニエンスストアやファミリーレストランのような場所も価値があるということがわかっています。多様な施設をどれだけ地域に分散的に配置できるかが鍵となります。公共の施設だけではなく、民間の施設も含めてと書いておくことが必要だと思います。

それと、将来動向のところですが、65歳以上だとまだ元気な方が沢山いらっしゃいます。75歳以上になると身体的な機能が低下してくる人が増えることが、研究でも明らかになっています。資料1の20ページを見ていただくと、練馬区のグラフがありますが、これを見ると現状で65歳以上の人口は16万人程度となりますが、このうちの半分くらいが75歳以上だと思われます。ところが、一番高齢化が進む平成64年(2052年)の段階では、たぶん7~8割程度が75歳以上の高齢者となります。現在、8万人程度が75歳以上の高齢者

だとすると、平成 64 年（2052 年）には 16 万人程度になると思われます。今より倍の人数の高齢者への支援を考えなければいけないということになるわけです。つまり、今の倍の施設や居場所が必要になるということです。その全体数の大きさを考えないと、見誤ることになります。この将来動向のところは、高齢化のことを記述するのであれば、やはり 75 歳以上の後期高齢者の全体数がどれだけ増えるのかということを押さえておいた方が良いかと思います。

#### 【委員長】

最初の人口の将来動向も、少し高齢者の中身に触れる記載をしたほうが良いというご指摘です。それから、まちづくりについては、分散的な配置・きめ細かい配置を、民間の力を借りながら居場所をつくる、そのような視点が大事だという話だったかと思います。

この「まちづくり」のところは他のジャンルに比べて非常に幅が広がっているため、拠点的な話と街区・住区のような話とは、分けた方が良いかと思えます。何で分けるかは色々あると思いますが、「まちづくり」ではと全体が広すぎて、様々なものが入り議論が拡散しますので、居場所の議論とか、住区に関係するような話と、一方は拠点的な話をに入れていった方が全体のバランスも良くなるのではないかと思います。

#### 【委員】

100m以内に居場所をということになると、やはり商店街だとか地域というのがものすごく関わってくると思うのですが、今、環境まちづくり公社でいろいろな取り組みをしていて、少しでも人が休める場所をつくることを考えています。具体的にどのようなものを想定しているのかお聞きしたい。

#### 【委員】

様々な可能性があります。商店街も様々な形態のものがあり、昔はクリーニング屋、八百屋、豆腐屋などの生活に必要なお店が、本当に小さな拠点、小さな商店街にもなっていないような商店の集積としてありましたが、実はすごく大事な役割を持っていて、そういう街を取り戻さなくてはいけないというのがひとつ。

例えば、これは私の義理の母の具体的な話になるのですが、亡くなる少し前まで、皆さんがお話できるようなちょっとした座るスペースがある八百屋さんが近所にあって、自分で手押し車を押して出かけていました。ところがある日、八百屋さんがなくなってしまった途端、ほとんど外出しなくなってしまいました。それから急速に身体能力が落ちてしまいました。見ていて本当にあまりにも顕著だったために、それも私が研究するひとつの動機になっています。居場所みたいなものは、八百屋さんでも金物屋さんでも、いろんな場所に作れると思います。それは商店街が達成できるひとつの役割であると思います。若いころは買い物客としてお店の人とコミュニケーションをとることで充分ですが、高

齡者になってくると、更にそこで座って、お茶でも飲んで帰ってくるような、ちょっとした場所とか役割が商店街のいろいろなところにあると、高齢者にとってすごく優しい場になると思います。

**【委員】**

本当にその通りだと思います。移動はすごく便利だと思います。道路を作るのはまさにそこだと思います。商売を営んで感じますが、通り過ぎる人を捕まえることはものすごく難しいわけです。練馬区は住宅街ですから、どんなところに重点を置いたら良いか考えた時に、「ゆっくり動くまちづくり」ということです。スピードがなく、ゆっくり動けるような、何もかもがひとつのスピードで動くのではなくて、もっと自由に動けるようなまちづくりが良いのではないかと思います。そういう中で、立ち寄れるとか、ほんの小さな場所でちょっと寄れるような場所が必要かなと思っています。

それからもうひとつ、先ほどから年齢のお話がよく出るのですが、それ以外に生活保護の話もあると思います。近所の学校では、30%が生活保護を受けていると聞いているのですが、高齢者とはまた別に考える必要があるのでしょうか。

**【委員】**

重要なテーマだと思います。

**【委員】**

現状、商店街の周辺でも高齢者の方が増えるのと同じくらい増えているように感じています。そのあたりを委員の皆さんはどう考えられるのかと、一度聞いてみたいと思っていました。

**【委員】**

生活保護について、先ほど 30%と話がありましたが、就学援助を受給している世帯の割合がおそらく 30%程度だと思います。生活保護の受給率は、全体ではおそらく 2%いかない程度で、練馬も同じような傾向をたどっています。それと、生活保護は、受給世帯は少しずつ増えていますが、人数は減っています。この原因というのは、生活保護受給者のいわゆる働ける世帯は家族でいることが多いので、仕事をして自立をしていくのですが、増えている方はほとんど高齢者の単身世帯です。ご指摘のように、全国的に生活保護受給者の世帯が増えているというのは、一人暮らしの高齢者がどんどん増えているということなのです。それは、練馬区に限らず 23 区も全国的にも同じような傾向です。そのため、おそらくこれからの主要なターゲットはやはり、貧困な高齢者に対してどのように対応していくかです。それは社会保障の関係なので、まちづくりとは少し違う分野になるかもしれませんが、経済的に困窮している人たちが、まちでどうやって暮らしていくか、そこを支えていくのはどうするかという

は、重要な視点になってくると思います。

**【委員】**

まちづくり関係でいうと、例えばアフォーダブルというか、非常に低廉な住宅を増やせない中で、高齢者が住み続けられるような住宅をどう確保できるかというのは大きなテーマになっています。それから生活保護の方も含めて高齢者が健全に暮らせるような居場所、例えば出前で商店街の方が地域まで出て行って、いろいろ楽しいことをやりながら、高齢者とお話することで、高齢者の状態がよくわかってくると思います。そういうことがすごく大事なのだと思います。そこでいろいろ情報をキャッチできると、ケアする人たちにも見えてくるので、そのふたつはまちづくりにも関係するかもしれません。

ひとつ、言い忘れましたが、移動で買い物をシェアするということはあると思います。商店街の方が出て行って、昔、御用聞きをやっていたのと同じように、地域に出ていくとか、場合によってはどこかの公園で販売をして、そこまでは来てもらうとかということもあるかもしれません。

**【委員】**

商店街のこれからのあり方や方向性が、そのようなところにあるような気がします。

**【企画課長】**

前回の会議で説明した「グランドデザイン構想」において、この「都市のグランドデザイン」以外にも、「暮らしのグランドデザイン」、「区民参加と協働のグランドデザイン」をあわせて策定するというようにしております。特に暮らしの部分では、そのような生活困窮者・生活保護の方を支えるような内容をどうしていくべきか、どういう10年後になっていけばいいかという観点で、福祉サービスの部分的なソフトの内容について議論をさせていただいて、あるべき姿を示していきたいと考えています。

**【委員長】**

今の議論については、都市像・まちづくりの分野の中でも、先ほどアフォーダブルという言葉がありましたが、そのような方をうまく街の中で受け入れていくというような要素が大事だと思うのですが、資料1では人口の将来動向を表面的に記述してあるのですが、多少はそういった視点も含める方がよろしいかと思いますので、ご指摘を踏まえて事務局で検討をお願いします。

**【委員】**

農地について、若年層世帯の話だけになっているので、高齢者に向けたサービスだとか、住まいづくりのチャンスの両方が必要かと思います。それと空き家の活用のことです。すでに作られている住宅をうまく利活用することで、比

較的低廉な価格で住むことができるわけです。練馬区とか杉並区、世田谷区は、あまり空き家がないように見えますが、実際、世田谷区で調査してみると、放置されている建物は増えています。おそらくそれは練馬区も同じではないかと思えます。空き家の活用なども、あっても良いかと思えます。

**【都市計画課長】**

今回、「都市のグランドデザイン」と「暮らしのグランドデザイン」、「区民参加と協働のグランドデザイン」を策定しますので、3つのグランドデザインの役割分担の中で整理をしていきます。

ただ、「都市のグランドデザイン」では都市インフラを中心にするとしても、視点としては必要だというお話がありましたので、練馬の特性を生かして30年後の将来像を描いていくという基本部分を踏まえながら、もう一度整理をしてご意見を伺えればと思います。

**【委員】**

外国人人口が増えるとのことですが、外国人の方とのコミュニケーション等も入れてもらった方が良いかと思いました。文化や慣習などの違いから、地域の問題となることもあります。先ほどの「八百屋さんの前に椅子を置いて」というのは、私も考え方としてはすごく好きですが、外国の方と共生できるコミュニティの形成も検討課題にした方が良いかと思えます。

**【都市計画課長】**

重複となりますが、まさに「暮らしのグランドデザイン」では、多様化する人々との暮らしをこれからどのように進めていくかという視点がありますので、どのように整理するかを検討する際の参考にさせていただきます。

**【委員長】**

ご指摘のあった空き家の対策について、区の政策の現状はどうなっていますか。

**【都市計画課長】**

空き家対策というのは、大きな課題だと考えており、条例を制定したところです。基本的に大きく分けると、管理不適切な住宅への対策と空き家の利活用となります。

趣旨を要約すると「住まう」という視点に基づく意見をいただいたと認識しています。「都市のグランドデザイン」の中で住宅問題についてどのようなアプローチをするのかという課題をいただいたものと考えております。

**【委員】**

理想とする都市像が、駅周辺と幹線道路、農業・農地、自然・公園の4点に

なっています。もちろんこれも重要ですが、「住宅地」というものを項目立てした方が良いのではないかと思います。というのは、先ほどご指摘があったような、地域に住むことを支えるような機能をどう空間的に作っていくのかというのは非常に重要なテーマですし、空き家や空き地をどう活用していくのかということも非常に重要な課題だと思います。そこに、アフォーダブルな住宅にするとか、地域の居場所になるように活用するとかということも考えられるでしょうし、あとは住宅地が駅などを作るわけで、個性的な住宅地がないと、豊かな駅ができない。あえて前後させているのですが、駅は駅で重要ですし、駅周辺の捉え方も大事なのですが、練馬区を考えると、駅周辺ではどこの駅周辺なのかわからなくて、やはり住宅地としての捉え方というのがとても必要な気がします。そのあたりはいかがでしょうか。

#### 【都市計画課長】

練馬区が目指す方向性については、重要となる視点を踏まえて、網羅的ではなく、特長的な部分を30年後の将来像としてまとめることを前提に、4つの理想とする都市像にしています。当然ですが防災、安全・安心などの都市の役割・機能において配慮する視点は必ず必要だと認識していますので、駅周辺とか農業・農地といったテーマに「住まう」という視点を入れていきたいと考えています。例えば、農業・農地の中で「住宅地の中に農地が溶け込むまちが醸し出す練馬の個性」ということで、普通の住宅地という部分もありますが、農地とともに住宅地が共存できるというような視点というものをひとつ入れています。また、道路の部分でも「イベント開催などで日常の楽しみを味わえる歩道空間」、「日常生活の場として利用できる生活道路」は歩道空間、道路中心に表現していますが、住宅地の中の未来像をこの中で表現していくことを考えています。大きな視点として住宅地という視点も入れるべきというご指摘かと思いますが、事務局としてはこのような考えを持っています。

#### 【委員長】

何人かの委員の方から、まちづくりの中では住区とか身近な環境、そういうものが大事だという話がありましたが、「目指す方向性」の中に分かりやすく入っているかということ、真っ直ぐに落ちない部分があると思います。やはり、居場所のようなものを分散して、うまく生活感を作っていかなければいけない。それに関して、そのような議論を受け止める場所が無いと、入っていることは入っているのですが、そこは少し工夫の余地があるかと思います。そういうことでよろしいでしょうか。

#### 【参与】

都市像として書いていますので、特に際立った部分をクローズアップしているのですが、練馬区のほとんどは住宅地ですので、その答えがないのかと言われると、それはまたおかしな話だろうというご指摘はもっともだと思います。

イメージとして描くかどうかは別として、そこを押さえておかななくてはいいことは事実だろうと思います。住宅のソフトの部分になるかもしれませんが、項目として議論をしておくことは必要かと思います。

#### 【委員】

必ずしも、絵が他のものと同じようにはいけないという話ではないと考えます。それは重要な柱なので、4つの柱と同じ扱いにして、華やかな絵が必要かということもそれとまた少し違うので、整理したら良いかなと思います。

#### 【委員長】

絵に書けないこともあると思いますので、チャートみたいなことでも良いと思います。特に4つ並んでいるうちの一番上が「個性豊かな駅周辺のまちで」と書いてあるので、駅周辺の議論になってしまいます。駅周辺も大事ですが、それ以外の駅周辺ではないとは言いませんが、少し離れたところも含めて、住区としてどういう風に、空き家の問題も含めて扱っていくか、一旦それは、柱をたてるかどうかも含めて、検討してください。

#### 【参与】

事務局で議論した重要なポイントで、資料3の練馬区が目指す方向性において重要となる視点のところにそもそも「住宅都市として」と書いています。この4つの理想とする都市像の5つ目に並ぶのか、もっと大前提に住宅都市練馬ということをもっと大きく打ち出すのかというのは重要なところです。どちらかということ4つの理想とする都市像は、政策的に行政側が意図的に相当いるんなことを打ち出せる部分ではあります。住宅都市あるいは住宅地をどうするという部分はもちろん政策の中にもありますが、これは練馬区の今の趨勢とかあるいは今後こうしたいなという、根本的な性格を表している部分なので、5つ目に並べるイメージか、あるいはもっと大上段に大きな「住宅都市を目指す」として、そのうちの重要項目としての4つを並べていくということもあるかもしれません。

#### 【委員長】

並列で並べるか、前提とするか、いろいろなやり方があると思いますので、いずれにしる、そのような観点が非常に大事だということが見る人にわかるように示したほうが良いということだと思います。主な視点の中でも、道路、交通あるいは環境・みどり・農地の比重が大きいと感じますがいかがでしょうか。

#### 【副委員長】

「健康」というキーワードが少し必要な気がします。プレゼンテーションでも触れましたが、健康と利便性は相反するものです。パーソナルな乗り物、まったく歩かなくてもどこにでも行けるような乗り物が出てくると便利かもし

れませんが、それは健康には決してよくありません。基本的には1歳でも長く、自分の足で買い物に行けるまちの方が、おそらく理想的です。区を挙げてとにかく健康で長生きしてもらおうということを推進している状況を考えると、あまり利便性ばかりを追求すると、少し逆行してしまう可能性を感じます。パーソナルな乗り物よりも自転車の方が、私はむしろ未来的だと思います。キーワードをどこかに欲しいと思いました。

**【委員長】**

交通のところで少し視点を入れています。

**【副委員長】**

都市像の中にも、どこかに健康都市のようなことを少し入れられると良いと思います。

**【委員長】**

今のご指摘も含めて事務局で検討をお願いします。環境・みどり・農地はいかがですか。

**【委員】**

みどりの多面的な機能性というのは、エリアで追求することもあると思いますが、ある程度つながりを持たせて、適材適所で環境機能の高い、特化したようなみどりが享受できるネットワーク性も大事かと思います。空間的なあるエリアを特長とするだけではなく、みどりのつながりがどのようなエリアで保てるのかが全体像、将来像としても大事かと思います。それが、交通やコミュニティ、世代の多様性などと整合が図られて、地域ごとにイメージできることが良いと感じています。

**【委員長】**

単なるみどりではなく、環境的な側面でも生態系のみどりのネットワークをエリアで捉える必要があるとの指摘かと思います。ここは少し整理する必要があると思います。

**【委員】**

水とみどりのネットワークというのは、河川の計画ですとか、多面林ですとか、環境の骨格というものがひとつあります。そういった骨格というのはひとつの軸になった上で、その周辺の農地ですとか、都市ごとの特徴に応じて、機能を特化させて、地域ごとに特色をつけられると良いと思います。それを「みどりの基本計画」でも検討しています。

**【委員長】**

環境とみどりと農地と3つ記述があるのですが、中身が少し重複しているのと、当然、考え方の基礎が環境となります。水の観点もご指摘がありましたので、全体として整理をお願いします。

**【都市計画課長】**

環境については、どちらかというエネルギー的な観点を意識しています。

**【委員】**

まとめた内容がうまく収まるように検討してください。委員長の話を踏まえるともっと大括りでも良いのかもしれない。

**【委員長】**

ここがアウトプットではないので色々書いてあっても良いと思います。

**【技監】**

プレゼンテーションの主な視点という部分は、これを最終的なアウトプットに整理をするというわけではなく、主な意見として例示してあります。最後のアウトプットの4項目に分けて、どこかに入れ込んでいく要素として見ていただければと思います。

**【委員長】**

では、資料4の議論に移りたいと思います。まさにアウトプットをどうするかという部分です。

理想とする都市像を仮に4つ設定していますが、これまでの委員会で議論されていないものも含めて配慮する視点として考慮し、具体的な都市像にしていくことを示したもので、これでほぼ網羅できるという理解で良いのでしょうか。

**【委員】**

どちらかという環境あるいは自然、みどりというのは少し内向きというか、もう少し地球環境問題を出すような、矜持みたいなものが欲しい気がします。

やはり練馬区だけでなく、地球に負担をかけないという、そのあたりも一つくらいあっても良いかと思います。

**【都市計画課長】**

エネルギー問題は地球規模の視点が必要であることは認識しています。事務局の中でも議論を行いました。練馬区の30年後の将来像の中で、どこまで環境施策として打ち出せるかとの課題もあり、地球規模までは踏み出しづらいと考えている状況です。

都市像の一つに位置付けることが難しいため、「配慮する視点」に盛り込み、

拠点周辺とまちのところで、安全・安心とともに環境・エネルギーに言及することを検討しています。

**【技監】**

今後のまとめ方としてイメージしているのは、目指すまちの絵姿があって、これを実現することが、例えば、地域環境の緩和にもつながるということを言葉で表現する。絵姿と言葉での表現がセットになったものと考えています。委員からいただく意見の要素を、目指すまちを実現することで得られる効果の部分に反映していく、いわば最終的な結論になるような描き方にしたいと考えています。

**【委員】**

4項目ある理想とする都市像のそれぞれにある将来像の中に、一つぐらいは書いてあっても良いような気もしています。

**【委員長】**

まとめ方に関する内容に議論が及んできましたので、資料5の説明を事務局からお願いします。

(4) (仮称)都市のグランドデザイン(素案)の構成について

**【都市計画課長】**

資料5 説明

**【委員長】**

(仮称)都市のグランドデザイン(素案)の体裁想定としては、「表紙」があり、その次に「前書き」があって、「本編」のところがビジュアルデザインになるのでしょうか。

**【都市計画課長】**

本編の想定をスクリーンに投影しますのでご覧ください。

**【委員長】**

将来像に至る都市の役割・機能において配慮する視点は、記述されないということですか。

**【都市計画課長】**

例えば、将来的にはマルシェなどが公共空間を活用して広く開催できるようになりますと。これは駅前広場のような公共空間を使っていますが、このような公共空間を使いながら、練馬産の農産物を売りますという説明が入ります。

**【委員長】**

鳥瞰図とパースの中に、その視点を切り分けて入れ込んでいくということですか。

**【都市計画課長】**

資料4の具体的な都市の姿(将来像)でも、その点を意識してまとめています。

**【委員長】**

配慮する視点の「日常生活の楽しみ」のような部分は、鳥瞰図やパースの中に切り分けて書けるのかと思いますが、中には難しいものがあると感じます。結果として、議論はするけど本編には反映されない可能性もあるのですか。

**【技監】**

配慮する視点の内容については、「前書き」の部分で簡単に文章化して記述することになるかと思います。「本編」では、まちの絵姿と文書表現の中に議論の中身をちりばめていくことになるかと思います。

例えば、みどりのネットワークの話は、鳥瞰図にみどりのネットワークを表す絵を描いて、文章表現の中で具体的に役割や機能を記述することになります。先ほど、住宅地の中に身近で憩える場所をとの意見がありましたが、これをどのように絵に描くかをいま考えていたところです。

**【委員】**

「個性豊かな駅周辺のまち」を「個性豊かな駅周辺とまちで」ということにすれば良いと思います。

**【技監】**

住宅地の中に住民が憩える場所、もしかしたら小さい公園があってそこに憩える場所があって、というような絵を描いて、説明のところに文章を少し入れるという感じかと思います。

**【委員】**

「個性豊かな駅周辺のまち」の「の」を「と」に変えて、パースの中の一枚でそれを描くことで良いと思います。みどりのネットワークも同様ですが、骨格的なものがあって、その受け止め方が地域によって差があります。そこうまく表現できたら良いと思います。

**【副委員長】**

理想とする都市像について、交通の観点から少し具体的にいうと、「駅周辺」

の主題と「道路」の主題は分けることができないと思います。幹線道路の整備により、駅周辺の商店街をモール化できるという話をしましたが、要するに一緒です。住宅地と駅前のように場所で分ければ、道路と鉄道の関係で区別することができます。この点から組み換えを検討できないでしょうか。

**【技監】**

絵姿の描き方で、副委員長の指摘には応えることができると思います。ただし、理想とする都市像の4つの方向性だけでいくと、一般的な住宅地が入らないため、工夫が必要になると考えています。

**【委員】**

副委員長の指摘は、4つの円が独立するのではなく、重なる領域があるということだと思います。その重なる領域についても、上手にビジュアルにまとめ、都市インフラごとの役割分担として表現することだと思います。残る住宅地については「駅周辺と」に変更することで良いかと。

**【参与】**

本日の会議で指摘のあった「分散」と「小さな拠点」が確かに抜け落ちていて、住宅地そのものというよりも、小さな拠点みたいなものをイメージする。特定の市街地ではなくて、一般化した市街地という意味での住宅地を、「駅周辺“と”まち」ということで消化する必要があると思っています。また、道路の重複というの、練馬区が一番弱い道路を際立たせて、防災やみどりとの関連でも描く必要性を考えた結果によるもので、再度、整理のうえで意見をいただく必要があると思います。

**【委員長】**

絵が主体であることは最初から説明を受けていましたが、やはり絵で描けないこともあります。都市の役割・機能の中には抽象的で絵には描けないが、大事なこともあります。今後考える必要がある配慮すべき視点も柱として明確にして、それを踏まえた絵であることが分かるようにする。絵本を作っているわけではないので、絵には落ちないけれど重要だというものを大事に扱うことが必要だと思います。

**【委員】**

この4つのキーワードで良いのですが、それが重なり合いながら練馬のまちを支えていくような、良いダイアグラムの文字の入った表現が必要な気がします。全体の中の重要な部分だけを絵にする方がとてもわかりやすいと思います。

**【委員長】**

いきなり鳥瞰図が出るのではなく、考え方の道筋というか柱建てみたいなものをきちんと説明して、そのうえでの絵になっていけばいいかと思います。「前書き」とも「本編」とも明確には言えないのですが、構成上の工夫が必要だと思いますので検討してください。

**【委員】**

これまでの生産緑地地区についての議論がありましたが、現在考えられている構成からすると、みどりをしっかり守って、豊かな自然ということで、生産緑地地区はなるべく開発させないというような方針に見えますが、その点の考えを聞かせてください。

**【都市計画課長】**

保全が前提となりますが、開発となった場合の所有者の意向も考慮する必要があり、区として考え方をどのように整理するかが一つの大きな課題だと思っています。このたびの都市計画法の改正の中で、新しく用途地域ができましたので、それをどのように活用して農地を残していくかも検討しなければいけないと考えています。

**【技監】**

わかりやすく言うと、練馬区としては、今ある生産緑地地区は残せるものなら残したいと考えています。ただそれは極めて現実的ではなく、一定程度、開発をされるのは止むを得ない。それをどう誘導していくかだと思います。その計画的誘導というのは、従来は市街化を前提とする誘導でしたが、現在は生産緑地地区を残しつつ、どう誘導できるかだと思っています。

**【委員】**

誘導をどうするかの記事はなかなか難しいとは思いますが、ただ、それを書かないとランドデザインとしてはどうなのかと思います。

**【参与】**

今回の都市計画法の改正は、農地だけでなく農業も含めて、「都市にあってしかるべき」という方向に舵を切りました。大事なポイントですが、これまでの生産緑地制度なくしては、この結果には至らなかった。ランドデザインであれば、保全を相当色濃く出したデザインにしたいというのがこちらの意向です。あわよくば法制度も含めて、生産緑地地区から都市農地に切り替えていきたいということです。

**【委員】**

後期高齢者が増えるという話でしたが、先ほどの空き家の問題も、高齢化の進展や、核家族化がもっと小単位になり、高齢の単身者が増加するがゆえに空

き家が発生するわけです。人口の将来動態の推計をしていくと、その対応へ誘導されてしまい、高齢者が住みやすいまちをどうするのかにあまり触れられない。そのあたりが気にはなっています。

それと、生産緑地地区については、狙いを定めているのはいわゆる戸建て住宅やマンションというよりも福祉施設です。「暮らしのグランドデザイン」で描く今後の施設需要と常に相反します。後期高齢者の増加を取り上げた場合、それに対しての都市インフラのあり方を明確に示せなければ良いものにならないと思います。

#### 【委員】

結局、団塊の世代の人たちが一番気になります。様々な状況を想定しても、ある程度住み続けられるまちになる、というイメージも大事かもしれません。ビジュアルにどのように表現するか難しいと思いますが。

#### 【技監】

ご指摘のとおり、「都市」と「暮らし」で相反することを示してしまうことになりかねませんので、しっかりと調整をしていきます。

#### 【委員】

特別養護老人ホームや高齢者施設を整備することは必要です。バランスの話だと思います。守るべきところは守って、宅地化する際には、地域の全体構成のバランスをとるような循環供給と、やはり高齢化はどうしても進むので、高齢者が住みやすくなるように必要な施設を作るということをセットで考えていくことが大事だと思います。

#### 【委員長】

「都市のグランドデザイン」はビジュアルデザインを中心とする考えが最初からありました。絵に描くということは、基本的にはひとつに固定することになります。すべてを絵で表現することは少し難しいと思うのですが、やはり具象的な絵だけで物語るとするのは難しく、考え方の道筋をうまく説明する絵で内容を表現するというのも大事だと思います。絵になれば良いですけど、矛盾した絵を描くわけにはいけないので、そこは次回以降、具体的な作業をまとめられる際に工夫をしていただきたいと思います。

#### 【参与】

高齢者の問題であらためて確認したいのですが、練馬区なり自分自身を認識する際、絶対的な認識というのはなかなか難しいので、傾向や時間的な変化の分析、他人との比較を行います。時間的な変化においては高齢化していることは間違いありませんが、他との比較の中では年少人口割合が高く、弱い高齢化であることが言えます。そのような特長がある練馬区で、あまり高齢化を強

くは意識させなかったというところがあります。

**【委員】**

私が思ったのは、現状の中で「若者もいます。生産年齢人口もたくさんいます」と見せるのであれば、これでいいと思います。ただ先ほどの議論の後期高齢者の数は押さえないといけないので、最初の現状の捉え方を整理する必要があります。高齢者だけと捉える事は私も全然考えていません。見せ方として、最初に「これが課題である、現状である」というと、どうしてもそこに引っ張られますので、練馬区は若年世代が沢山いるということを見せて頂ければと思います。

**【委員長】**

時間が残り少なくなってきましたので、明確にしておきたい点があれば発言をお願いします。

**【委員】**

駅周辺と道路は不可分との話がありましたが、みどりも各所に散りばめられていて、やはり分けることができません。この混ざり方が地域によってどう違うのかが、練馬のアイデンティティとなります。面として将来像を見せる中で、暮らしの中のみどりであったり、団地や街路樹のみどりも非常に大事なアイデンティティとなりますので、単に保全するだけでなく、新しくそれらをどう接続するかを、周辺の民有地も含めて示すことができれば良いと思います。

**【委員長】**

他にはいかがでしょうか。

**【委員】**

人口推計の中に、練馬地区・光が丘地区・大泉地区・石神井地区に分けたものがありますが、練馬地区と大泉地区ではまったく地域環境が違うと思います。そのあたりはどうなのかなと感じております。

**【委員】**

私も気になりましたが、練馬区の西側の地域をイメージしたものが多く、東側の既成市街地系の話が少ないかなと感じています。そちらの住民から声が上ることを懸念しています。

**【委員長】**

絵が前提となると難しいかもしれません。

**【技監】**

こちらでも検討しましたが、既成市街地は絵にすることが難しい。「狭い道路が広くなり、こんな良いまちになります」というように従前従後で描けばわかりますが、従後だけは伝わらないと思っています。

**【委員長】**

それでも良いのではと思います。要するにプロセスがないと差がわからないということですね。

**【技監】**

いわゆる普通の住宅地で、先ほど話がありました「人が憩える場所がある」という絵だとすると、それは東側エリアの住宅地にあてはまりますので、均衡を図ることができると思います。

**【委員】**

スクリーンに投影された絵では、場所が限定されすぎませんか。

**【委員】**

想像の絵というのは、似せることはできるのですか。この絵を見た時に、これはどこのまちをイメージしているのかなと思いませんか。例えば、「石神井公園の30年後を考えてこういう絵を描いたのかな」とか。

**【委員長】**

場所を特定できる絵にするのですか。

**【技監】**

今後、絵姿をこの会議で提示していく中で、場所の特定できるものと一般的なものの両方があると思っています。場所の特定が絵姿をわかりやすくするのは特定をし、それ以外は一般的なものになると思っています。

**【委員】**

都営地下鉄大江戸線の延伸についての会議では、街路樹や道路のみどりに対してものすごく考えています。どのようにみどりを繋げていこうかということも考えているので、街路樹のあるべき形をしっかりと作ることができれば、それこそ東側にも適用できると思います。実は、外環の脇の側道などはジャングルのような状態になっています。みどりというのは難しく、あるだけでなく、みどりの役割が重要だと思います。それを街路樹でどのように表現するかはすごく大事だと思います。

**【都市計画課長】**

本日は、サンプルとしてビジュアルを示していますので、残る2回の会議に

において、重要となる視点と配慮する視点を絵姿と文章の表現でまとめて、それをもとに議論いただくことを考えています。

**【委員長】**

鳥瞰図とパースで、すべてを落とし込むのは少し無理があると思います。鳥瞰的ではない事象もありますし、抽象的で絵にし辛いものもあります。その部分をうまく知恵を集めて工夫していただければと思います。

3 その他

**【都市計画課長】**

次回の開催日時等について説明

**【委員長】**

それでは、本日の会議はこれで終わりたいと思います。ありがとうございました。

(以上)